

文化財科学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester
文化財科学特論Ⅰ	ユーラシア草原地帯の文化財と考古学	2	松本 圭太	前期 火曜3限
文化財科学特論Ⅱ	日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究	2	菅野 智則	後期 木曜4限
文化財科学研究演習Ⅲ	文化財科学研究史(1)	2	吉野 武、佐藤 憲幸	前期 集中講義
文化財科学研究演習Ⅳ	:文化財科学の方法と理論(1)	2	吉野 武、佐藤 憲幸	後期 集中講義
文化財科学研究実習Ⅱ	古代遺跡調査の方法と実践	2	吉野 武、村上 裕次	前期 集中講義

科目名：文化財科学特論 I

曜日・講時：火曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：松本 圭太

コード：LM12302, **科目ナンバリング：**LJS-CUM601J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ユーラシア草原地帯の文化財と考古学

2・授業の目的と概要：ハンガリーから中国の大興安嶺まで広がるユーラシア草原地帯は、ヨーロッパとアジアを繋ぐ位置にあり、ここを通じて様々な集団、技術、情報が東西に広がった。同時に、草原地帯に居住した、牧畜を生業の基礎とする諸集団は、それ以南の農耕地帯の集団とは異なった独特の文化を形成し、草原地帯で発生して他地域へ広がった技術や伝統も多い。日本列島を含めたユーラシア大陸周辺の歴史は、いわゆる「文明」とその北方に位置する草原地帯の相互関係で初めて理解できるのである。こうした草原地帯の古代文化を解明するにあたって重要なのが、かれらの残

3. 学習の到達目標：ユーラシア草原地帯の青銅器の特徴から、鑄造技法や時期、地域を推測することができる。草原地帯の文化財とその取扱い、資料化、研究方法について習熟している。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1講 草原地帯における竿頭飾の分布
- 第2講 草原地帯とチベット高原の繋がり
- 第3・4講 スキタイ・サカ文化に関する論点を知る
- 第5講 ユーラシア草原地帯の青銅器時代とは
- 第6・7講 ユーラシア草原地帯と東アジアの視点
- 第8・9講 中国初期青銅器と草原地帯の青銅器
- 第10講 セイマ・トルビノ青銅器群と中国の青銅器時代
- 第11講 殷墟とシベリアの関係について
- 第12講 前2千年紀後半の青銅器の類似について
- 第13・14講 類似から歴史へ（カラスク問題の解決）
- 第15講 文化財の観察と記録

5. 成績評価方法：出席及びレポートにて評価する

6. 教科書および参考書：適宜資料を配布する。電子版もあるため、パソコン持参が望ましい。

7. 授業時間外学習：授業内では多くの資料を紹介し、データの検索方法にも言及する。それに従って、各資料の詳細について自身で調べてほしい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

一次資料を用いての観察も視野に入れているので、考古学基礎実習を履修した者の受講が望ましい。

科目名：文化財科学特論Ⅱ

曜日・講時：木曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：菅野 智則

コード：LM24402, 科目ナンバリング：LJS-CUM602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2・授業の目的と概要： 日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

- 3. 学習の到達目標：** (1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。
(2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、屋外での史跡見学を行います。

1. 本授業の目的と到達目標に関する解説
2. 日本考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 国指定史跡制度
5. 史跡仙台城跡の見学
6. 日本考古学と文化財保護の歴史 (1)
7. 日本考古学と文化財保護の歴史 (2)
8. 日本考古学と文化財保護の歴史 (3)
9. 埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
10. 埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
11. 埋蔵文化財保護行政の実際 (1)
12. 埋蔵文化財保護行政の実際 (2)
13. これからの文化財保護行政 (1)
14. これからの文化財保護行政 (2)
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席 (40%)・レポート (60%) を合わせて総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：授業配布資料を確認し、質問などを用意すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

オフィスアワー. 水曜日 16. 15～17. 15 (片平キャンパス・埋蔵文化財調査室)

メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：文化財科学研究演習Ⅲ

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：吉野 武、佐藤 憲幸

コード：LM98807, 科目ナンバリング：LJS-CUM605J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化財科学研究史 (1)

2・授業の目的と概要：この講義では、明治時代以来の文化財科学研究の歴史に伴って培われた文化財保護の始まりと、文化財保護法の施行による発展について理解する。日本では、1960年代の高度経済成長に伴う大規模開発によって埋蔵文化財行政が成熟し、文化財保護と活用の各分野が発展した。本講義では、受講者は文化財保護研究に対する独自の考えをもち、講義で発表を行う。また、相互の討論を通して、より深く研究の現状を認識する。

3. 学習の到達目標：(1) 文化財保護と活用の研究史を把握する。(2) 科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

1. 講義ガイダンス
2. 発表と議論
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

5. 成績評価方法：レポート [30%]・(○) 出席 [30%]・発表と討論 [40%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示、プリントを配布。

7. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
実務・実践的授業

9. その他：

研究演習 I、II を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：文化財科学研究演習IV

曜日・講時：集中講義

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：吉野 武、佐藤 憲幸

コード：LM98818, **科目ナンバリング：**LJS-CUM606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：文化財科学の方法と理論（1）

2・授業の目的と概要：この講義では、明治時代以来の文化財科学研究の歴史に伴って培われた文化財保護の始まりと、文化財保護法の施行による発展について理解する。日本では、1960年代の高度経済成長に伴う大規模開発によって埋蔵文化財行政が成熟し、文化財保護と活用の各分野が発展した。本講義では、受講者は文化財保護研究に対する独自の考えをもち、講義で発表を行う。また、相互の討論を通して、より深く研究の現状を認識する。

3. 学習の到達目標：（1）文化財保護と方法と理論を把握する。（2）科学的手法を取り入れた文化財保護と活用の方法と理論を理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。毎週の講義では、各学生が準備したレポートに基づいて発表をおこない、相互の討論を通じて理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

1. 講義ガイダンス
2. 発表と議論
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

5. 成績評価方法：レポート [30%]・(○)出席 [30%]・発表と討論 [40%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示、プリントを配布。

7. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
実務・実践的授業

9. その他：

研究演習 I、II を通年で連続履修することが望ましい。

科目名：文化財科学研究実習Ⅱ

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：吉野 武、村上 裕次

コード：LM98808, 科目ナンバリング：LJS-CUM608J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古代遺跡調査の方法と実践

2・授業の目的と概要：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に参加し、実際の発掘調査をおこなうための基礎的知識と、調査方法を学ぶ。また、遺跡から出土した遺物の整理や保存処理、科学的分析法を学び、文化財科学の方法と実践の基礎を学ぶ。

3. 学習の到達目標：(1) 史跡多賀城跡と関連遺跡の基礎的知識を身につける。(2) 発掘調査の方法を学び、実践する。(3) 出土遺物の整理法を身に付ける。(4) 出土遺物の保存処理や化学分析を実践するための基礎的な知識と技術を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

生徒は史跡多賀城跡または多賀城跡調査研究所にて、発掘と資料の整理・分析に参加する。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に関するガイダンス

第2回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査①

第3回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査②

第4回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査③

第5回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査④

第6回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑤

第7回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑥

第8回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑦

第9回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑧

第10回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑨

第11回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑩

第12回：出土遺物の基礎的な整理

第13回：保存処理の方法と実践

第14回：科学的分析の方法と実践

第15回：文化財科学の方法と実践

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [40%]・講義態度と発掘への取り組み [30%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示、プリントを配布

7. 授業時間外学習：発掘に関わる準備と、多賀城跡に関する研究史の学習。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

履修にあたっては、協力講座の考古学専攻分野に連絡すること。